

令和4年度第1回森林づくり委員会 議事録

日時：令和4年6月29日（水）

14：00～15：40

場所：大分県林業会館本館会議室

○出席委員 林委員長、田中副委員長、大平委員、長委員、横山委員、板場委員、森迫委員、菅委員、三ヶ田委員、岡崎委員、賀来委員、首藤委員、堺委員、詫摩委員 計14名

1. 開会

2. あいさつ 農林水産部 河野審議監

3. 委員会成立

大分県森林づくり委員会設置要綱第5条第2項、委員の過半数以上の出席で成立。
委員16名中、14名出席

4. 議事

(1) 大分県森林環境税の概要について

(資料P6)

大分県森林環境税の概要、令和3年度大分県森林環境税の成果、第4期森林環境税の取組みについて事務局より説明を行った。

<質疑>

(委員)

国の森林環境譲与税について、自分の住む市町村では活用されている感じが感じられません。スケジュール通り活用されているのでしょうか？もし問題があるようなら、どこに問題があるのでしょうか。また、是非指導をしてください。

(林務管理課)

現在、18市町村で9億9千万円が配分されています。配分されて活用されなかった税については積み立てて貯金しています。令和元年～2年度の活用率は約5割で、全国も県もほぼ同率です。

これまで、市町村には林業専門の職員がいなかったり、どう活用して良いか分からず活用が進まなかった状況でした。現在、県では専任職員をおいたり、市町村職員への研修を行ったりすることで森林環境譲与税の有効活用を進めています。令和4年度は、9億9千万円の配分に対し、10億円の予算化がされており、100%活用されるよう支援しています。

活用されている状況が分からないとのご指摘についてですが、市町村はHPで用途を公開することとなっている他、住民に向けて更にPRするよう依頼しています。

(委員)

誰がどう進めて行くのか、市町村が自律的に進めて行くのは難しいと思います。活用の進捗については、県にウォッチして頂いて配分された税はすぐ活用されるよう指導をお願いします。

(審議監)

今年度、森林ネットおおいたに森林環境譲与税活用支援センターを設置し、市町村職員の啓発、人材育成を始めました。森林環境譲与税が有効に活用されるよう支援して参ります。

(2) 令和3年度大分県森林環境税活用事業の取組について

令和3年度の森林環境税活用事業の実績について、各担当課室より実績の報告を行った。

①鳥獣被害総合対策事業

(資料P7～12)

鳥獣被害の様態、被害金額の推移、林業被害の現状、シカ対策の考え方と捕獲対策の効果について説明。

<質疑>

(委員)

先日の大分合同新聞では、被害対策を好意的に取り上げてくれていました。ただ、その対策に森林環境税が活用されているような情報は記載されていません。

森林環境税の活用されている他の取組についても、是非しっかり税が活用されていることをPRし、県民への周知を図るようにして頂きたいと思います。

(委員長)

イノシシの豚熱について、例えばワクチンなど、どこが担当されているのですか。

(森林環境保護班)

養豚の関係になるので、畜産の部署が担当しています。

林業部署も協力して実施していくこととしております。

(審議監)

予算については、森林環境税ではなく、農林水産省の畜産部局の予算で対応することとなっております。

②森林・林業教育促進事業

(資料P13～17)

指導者育成、森林教育プログラムの作成・実施、副読本の作成について報告を行った。

<質疑>

(委員)

副読本の本体はHPに上げてあると思うのですが、ガイドブックや使い方ガイドも上げていますか。

(森づくり班)

全て県のHPに上げています。

使い方ガイドは県内の小学校5年生、中学校1年生全員に配布しています。

また、副読本の作成には、長委員にも大変ご協力頂き、また横山社長の大成木材の職員の方にも取材ご協力頂きました。大変ありがとうございました。

(委員)

近所の子ども達は挨拶をしてくれ大変気持ちよいです。その子ども達が大きくなって、森の中にゴミを捨てるようになるのは大変悲しいことです。

県では「うつくし作戦」などいろいろな取組を行っているが、山、川、海にゴミを捨ててはいけない、という基本的なことを副読本に記載して欲しいと思います。

また、森を活用している一方、山にはシカの被害などがあり、被害から山を守ってくれている人がいる、というようなことを伝えて欲しいです。

※現在の副読本の中には、ゴミを捨てないように、といった記載はありません。

シカの被害や山を守る取組を行っている林業者については取り上げています。

(委員)

平成になって、教科書から「林業」という言葉が消えました。その間、副読本で教えていました。その後、平成29年度に学習指導要領が改正され、小学校5年生と中学校で森林・林業という表現が復活して、もう一度このタイミングで林業について学んで欲しいという思いで作ってもらいました。次に改訂する際には、もっと幅広に盛り込んで頂ければよいと思います。

(委員)

子どもが中学1年生で、このガイドを持って帰ってきましたが、活用について本人には意識がありません。捨ててしまう家庭もあると思います。授業の中でどうやって活用をしていく計画になっているのでしょうか。

(森づくり班)

各市町村教育委員会を通じて各学校に配布しました。中学校の技術では3カ年かけて活用できるところがポイントである旨の説明も添付していますが、副読本の利活用への思いはなかなか伝えることが難しいのが現状と思います。地道な活用の推進をしていく必要があると考えています。

(委員)

幼児から大学生まで体系的なプログラムを提供していくことや副読本といった教材の有効活用も大切だと思います。また指導者の育成に関わりますが、小学校の先生になりたいという学生達に、無理のない形で研修等を受講してもらうことは大切なのではないかと思います。

大学生は植栽、下刈りなど様々な体験をさせてもらっていますが、大変長いスパンをかけて森が作られることを学んでもらいたいと思います。デジタル化が進みスピード重視で成果を速く求められる時代ですが、長いスパンで物事を見ていく、教育的効果を見ていって欲しいと思います。

(委員)

副読本については、タブレットで見ることを想定しているとのことですが、タブレットを縦にして使うことはあまりないと思います。デジタルなので統計情報など最新の物にアップデートしていくことが大切だと思います。

(委員)

副読本の作成に協力させてもらい貴重な体験をさせて頂きました。
子ども達に、林業というものを環境産業として成立しているんだということを含め、様々な切り口でしっかり伝えて行きたいと思っています。

(委員)

モデル校の事例の取組は、今後こういった形で広めていくのですか。

(森づくり班)

今年度は、モデル校の取組を拡大し、これまでの流れを活かしながら玖珠町をモデル市町村として指定させて頂きました。

副読本や森の子学校体験活動推進事業などの取組を提案しながら、学校と連携して森林・林業教育を推進していきます。

(委員)

大分市子ども達への働きかけについてはまだしばらく先になるのでしょうか。

(審議監)

香々地や九重の県の社会教育施設を活用した取組を進めており、大分市については、新たに大分市ののつはる少年自然の家を中心に広げて行きたいと考えています。

③農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業

(資料P18～25)

日田林工の林業科の取組、ICT林業の体験学習や出前授業、バイオマス施設や合板工場の見学、外部講師の招聘授業の実施状況等について報告。

<質疑>

(委員)

令和3年度の卒業生の内、就職した生徒の県内への就職率について教えてください。

(高校教育課)

林業関連に就職した17名中、4名が県内に就職しています。

(委員)

小中高校と森林・林業を学ぶ体勢を整えて教育している中で、子ども達が社会に出て行く出口で森林・林業の業界として受け入れる体制を整えていくことが大切と思います。

(委員)

日本製鉄やダイハツなど、社会科見学としてきた子ども達に良いパンフレットやノベルティなど充実しているようです。林業関連企業も、ノベルティや見学用のバス代を補助するなど、一企業ではなかなか難しい対応を森林環境税で支援してあげられると子ども達が良いイメージを持つことができると思います。

(高校教育課)

見学先については、日田林工が独自で選択して見学させてもらっています。また、県振興局等へ相談しながら検討しているようです。

お土産関係はなかなか難しいと思っています。

(委員長)

木製品などを考えることもできるかもしれませんね。また、長委員などの見学などの受け入れ体勢はどうでしょうか。

(委員)

見学を受け入れる態勢を整えるのはなかなか難しい現状です。

(委員)

県内の林業関係の採用枠はあるのでしょうか。

(委員)

とてもたくさんあります。

(委員)

就職先はたくさんあるのに県内での就職率が低いと言うことで、求人のマッチングの取組について検討していくべきだと思います。

(委員)

日田林工の生徒の男女比について教えてください。

(高校教育課)

32名の卒業生のうち、女性は1名です。

(委員)

小学校から中学校で森林・林業について学んできて、高校については欠員が15名ということで、女性も含めて林業に興味をもつ子ども達の間口を広げるような、SDGsへの意識など、これまでと違った視点での取組ができないでしょうか。

(委員長)

重要な視点だと思いますので、事務局も検討してください。

(委員)

欠員が出ているとのことですが、努力しているのでしょうか。企業などは大変な努力をしています。

(高校教育課)

近隣の中学校へ説明会にまわったり、出前授業やHPでの情報発信などしています。まだ足りない部分もあると思うので強化していかないといけないと思っています。

(委員)

受験者数を増やすためには、汗をかいて努力する必要があると思います。

(3) 令和4年度大分県森林環境税活用事業について

(資料P26)

令和4年度の森林環境税活用事業の計画について説明を行った。

<質疑>

(委員)

最近、広いエリアで伐採されているところが目立っていると感じています。伐採跡地は遠目で見ると実際に植栽できているか分かりません大丈夫かと心配するところもあります。植栽がしっかり進んでいるということが目で見て分かる防災的にも安心できると思います。

(委員)

伐採したとしても、植栽の費用をひくと収益が厳しいという状況です。企業など大きな面積で伐採する分についてはほとんど植栽されていると思いますが、個人伐採の小さな売買ではなかなか完全には植えられていないのではないかと思います。

(審議監)

現在森林の伐採届け出制度では、伐採後にその後の植栽をどうするかまで届け出るように定めています。

植栽率については高く、何年か見てもらえるとしっかり山になっているはずです。

(委員長)

今年度の事業の取組については、次回の委員会で詳しい進捗が報告されると思います。

(4) その他

(資料P27～32)

①令和4年度 第45回全国育樹祭について

全国育樹祭の実施計画について全国育樹祭推進室より説明。

<質疑>

(委員)

機械展駐車場について、会場が山林内とのことで駐車場がないのではと心配しています。

(育樹祭室)

近隣の学校校庭や神楽女湖駐車場などを確保しています。またシャトルバスによる輸送を検討しております。

②今後のスケジュールについて

全国育樹祭式典行事への参加ご招待についての説明、また第2回森林づくり委員会の日程(予定)について説明。

4. 閉会